後期臨床研修カリキュラム【小児整形外科】

総合医療センター

【特徴】

当センター小児整形外科は、全国的・世界的にも珍しい、総合病院内に設けられた小児医療センターに属している小児運動器診療部門である。小児内科系各科および小児外科系各科と密接に連携しながら小児運動器の難治性疾患に積極的に取り組むとともに、成人整形外科と協力することにより思春期の小児運動器疾患に対しても高度な医療を提供できることが特徴です。

【研修目標】

１．一般目標

小児の運動器に関して、骨折などの外傷から先天性疾患、後天性疾患に至るまでの幅広い分野において、適切に診断・治療が行えるように修練するとともに、診断・治療が困難な罹患児に遭遇しても、論理的に診察・検査を進めて正しい診断・治療法の選択に至るように研鑽を積む。

２．行動目標

(1) 小児運動器疾患についての知識を整理する。
(2) 運動器の診察法の原理を理解しその手技に習熟する。
(3) X線、CT、MRIなどの画像診断技術を獲得する。
(4) 血液検査、筋電図などの検査データの読み方について習熟する。
(5) 関節穿刺、関節造影、脊髄造影、機能撮影法などの検査手技が実践できる。
(6) 身体所見、検査データ、画像診断結果を基に適切な診断ができる。
(7) 診断、治療について罹患児の保護者に適切に説明することができる。
(8) 関節穿刺、硬膜外ブロック、トリガーブロックなどの治療手技が実施できる。
(9) 四肢のギプスによる外固定が実施できる。
(10) 治療用補装具の処方、判定ができる。
(11) 牽引治療法の目的について理解し、その手技を習熟する。
(12) 保存的治療が可能であるか手術的治療が必要であるかを判断できる。
(13) 手術的治療を選択し、入院・手術計画をたてることができる。
(14) 術前術後の説明を保護者に対して適切に行うことができる。
(15) 骨折手術の基本手技に習熟する。
(16) 先天性内反足に対する軟部組織解離術が施行できる。
(17) 長幹骨変形などに対する矯正骨切り術、骨延長術が施行できる。
(18) 小児股関節疾患に対する基本的手術手技に習熟する。
(19) 小児整形外科手術の術後管理が実践できる。
(20) 術後経過について正しく評価できる。

【方略】

(1) 小児内科系、小児外科系、成人整形外科との連携を円滑に行い、総合的に診療ができる能力を養う。
(2) 上級医とともに診断、治療に携わり、適切に診療を実践する能力を養う。
(3) 外来予約患者に対する診察前には上級医への事前の相談などの準備を行い、診察時には保護者に対して適切に説明できるように備えておく。
(4) 手術予定患者に対して、術前患児の状態を十分に把握して術前カンファレンスに臨み、検査・診断・治療法の選択が適切であるかを確認する。
(5) 手術に臨み、手術手技を事前に確認・理解し、手術手技の修練に努力する。

（6） 治療に関する計画、経過、評価などを、指導医の添削を受けながら診療録に記載する。
（7） 年間2回以上の学会発表、1篇以上の論文執筆を行う。

【評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

【研修プログラム】

1年目（卒後3年目）	2年目（卒後4年目）	3年目（卒後5年目）
小児整形外科にて研修	小児整形外科にて研修 救命救急部研修（希望）	小児整形外科にて研修 国際学会発表（予定）
1. 希望により、成人整形外科の研修が可能。 2. 希望により、他の小児系医療施設小児整形外科での研修が可能。 3. レジデント研修プログラム修了後は、シニアレジデントへの応募資格あり。		

※ 希望に応じて小児系他科研修を考慮。

【見学等問い合わせ先】

小児整形外科部長　　北野　利夫